

## 交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和6年6月24日（月）  
午前9時24分 開会  
午前10時20分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 太田 智博  
副委員長 荒木 慎太郎  
委員 芦田 竹彦、清水 寛、  
須山 泰一、芹澤 正志、  
松井 正志
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主事 菅谷祐一
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

交通網問題対策等調査特別委員長 太田 智博

# 交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2024年6月24日(月)9:30～

場 所：第1委員会室

## 1 開 会

## 2 委員長あいさつ

## 3 協議事項

### (1) 委員会所管事項の現状について

【市長公室】 経営企画課

【都市整備部】 建設課、都市整備課

### (2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

### (3) 管外行政視察について

### (4) その他

## 4 閉 会

## 交通網問題対策等調査特別委員会名簿

### 【委員】

2024年6月24日現在

職名	氏名
委員長	太田 智博
副委員長	荒木 慎一郎
委員	芦田 竹彦
委員	清水 寛
委員	須山 泰一
委員	芹澤 正志
委員	松井 正志

### 【当局】

職名	氏名	職名	氏名
市長公室長	谷口 雄彦	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
経営企画課長	真狩 直哉	竹野振興局 地域振興課参事	森口 佳徳
都市整備部長	富森 靖彦	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
建設課長	久田 涉	出石振興局 地域振興課参事	神谷 謙二
建設課参事	堀田 政司	但東振興局 地域振興課参事	大岸 勝也
都市整備課長	堂垣 俊裕		
都市整備課参事	武中 孝寛		

12名

### 【議会事務局】

職名	氏名
議会事務局主事	菅谷 祐一

## 交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

### 1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

### 2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

### 3 委員の定数

8名

### 4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

### 5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

### 6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

### 7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

# 交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項

2024. 6. 24

## 1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関する事
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関する事

## 2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関する事
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関する事

## 3 バス交通に関する事項

- 路線バス等公共交通の充実と利用促進に関する事
- スクールバスに関する事

## 4 鉄道交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関する事

## 5 新たな交通サービスに関する事項

- 自家用有償旅客運送等に関する事

## 午前9時24分開会

○委員長（太田 智博） 皆さん、おはようございます。まだ定刻前ではございますが、皆さんおそろいになられましたので、交通網問題対策等調査特別委員会を始めたいというふうに思います。

委員長挨拶ということでございますが、近畿地方も梅雨入りをしたということで、私も昨日、おとといと米子市のほうにちょっと用事がありまして、行きましたけど、2日間ずっとの雨にやられておまして、どこの河川を見ても、かなり水が増えてきている状況ということを確認しました。この円山川のほうもちょっと水が増えたというふうな情報も聞いておりましたが、大きな災害にならずによかったのかなというふうに思っております。

これから梅雨が長引くとも言われてますし、短いとも言われておりますが、何が起きるか分かりませんので、しっかりと気を引き締めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをしたいというふうに思います。

なお、本日、当局から、都市整備課、武中参事の欠席についての申出がありましたので、許可をいたしておりますので、ご了承を願いたいと思っております。

それでは、3番、協議事項に入りたいと思っております。

（1）委員会所管事項の現状についての協議に入ります。

協議事項に入ります前に連絡をさせていただきます。委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願いいたします。

まず、（1）委員会所管事項についてを議題いたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダー、交通網問題対策等調査特別委員会2024.06.24の中に配信しておりますので、資料をご覧いただきたいというふうに思います。

それでは、経営企画課、建設課、都市整備課の順で説明をお願いをしたいと思います。

市長公室経営企画課、よろしくお祈いします。

真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） 経営企画課からは、市民の移動の在り方の検討ということで上げております。4月からできました未来共創室においてこれに取り組んでおります。

4月以降の進捗状況ですが、資料の2ページの下の方、赤字でありますように、市民の移動の在り方について庁内での検討会議の開催としておりますが、これにつきましては、現在、各分野における施策の状況、例えば教育ですとか、福祉ですとか、そういった分野における状況を未来共創室において、まず聞き取りをするなどをして整理をしております。さらに、来月、7月7日の日には自分ごと化会議が行われますけれども、そこでの市民の意見も踏まえ、第2四半期中には、少なくとも1回の庁内委員会、庁内検討会議というのを行いたいというふうには考えております。

2つ目ですけれども、竹野地域の交通再編に向けての意見交換会へ参加ということで、未来共創室として、竹野地域での交通再編が、どのような意見が出ているのかというようなことを直接、その会場に参加させていただいて、聞いているというようなことにしております。

私からは以上です。

○委員長（太田 智博） 都市整備部建設課、久田課長、お祈いします。

○建設課長（久田 渉） 3ページをご覧ください。

北近畿豊岡自動車道の事業促進についてですが、前回、4月11日の事務概要の説明から進捗状況としましては、特段記載内容等の追記など等の進展はございません。秋の開通式に向けまして、今、鋭意国土交通省に頑張ってもらっているところですし、先日、6月の18日には、開通イベントに向けての実行委員会が開催されております。ウォーキングのイベントなど、開催内容についての議論を開始されたところなんです。

2番目の豊岡道路Ⅱ期の用地買収の状況について、現在の状況を報告させていただきます。既に戸牧地区、岩井地区、宮井地区につきましては、契約率93%程度となっております。今年度より、栃江

地区にも用地交渉に向かっているところです。用地補償の対象者の方に、用地の買収面積や物件の保障内容など、いわゆる土地調書の確認をいただいております。現在、国土交通省が補償費の算定を行っており、算定ができ次第、契約に係る再度の用地交渉に向かう予定となっております。

また、前回も触れましたが、8月3日開催予定の北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道の早期実現促進大会や開通日等は未定ではございますが、北近畿豊岡自動車道開通式や祝賀会、開通記念イベントの開催など、議員の皆様にも適宜ご案内をさせていただきますので、ご協力のほど、よろしく願いをいたします。

4ページです。山陰近畿自動車道の事業促進についてですが、こちらにつきましても、前回、4月からの進捗としましては、特段進展はございませんが、変更になった点が1点あります。今年度、兵庫県が竹野道路の起工式を行うこととなっておりますが、北近畿豊岡自動車道の開通式や記念イベントの開催に加え、来年3月の予定となっております城崎大橋の関係など、いわゆるめでたいイベントが続くということがありまして、城崎道路の起工式は今年度から来年度に見送りを、延期をさせていただいて、分散させるほうが地元の機運を高めるといようなことには効果的であるとの判断をされたところです。

また、仮設工事ということで、この事務概要には記載をしておりますが、今年度、一部、竹野道路の一部で仮設道路の工事が発注される予定となっております。工事の箇所は、伊賀谷と、それから竹野町の林、トンネル工事に先立つ明かり部、いわゆる仮設盛土の工事を一部で発注されるということです。

5ページには、山陰近畿自動車道、北近畿豊岡自動車道の整備状況の図面を添付してございます。

説明は以上です。

○委員長（太田 智博） はい、ありがとうございます。

建設課、久田課長。

○建設課長（久田 渉） すみません、城崎ではなく、竹野道路の起工式です。

○委員長（太田 智博） 都市整備課、堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 都市整備課からは、4月からの進捗状況について説明させていただきます。

まず、6ページをご覧ください。空港の利用促進と利便性の向上についてです。

大項目1つ目の運賃助成や小学校社会見学事業による利用促進につきましては、5つ上げていまして、航空運賃助成事業につきましては、985件、小学生飛行機体験搭乗事業は、昨年度からの引き続きの事業となりますが、4月以降の分で6件、小学校社会見学事業は、2校で29件、2023年度、中学・高校・大学無料キャンペーンが107件、その他の助成として2件の利用促進事業を実施しており、5月末現在での合計で1,180件となっております。

今年度の但馬－伊丹便の利用率につきましては、4月は41.7%、5月は43.3%と、2か月連続で利用率が50%を下回っており、昨年4月、5月の平均利用率54.7%を大きく下回っております。利用率低迷の原因としましては、運賃の上昇に伴う影響が一部あり得ると考えられておりましたが、6月20日からは、昨年並みの運賃に改定されていることから、今後の利用率の増加に期待しているところです。

次に、大項目2つ目の但馬空港開港30周年記念事業や大阪・関西万博に向けた取組の実施についてです。まず、30周年記念事業、小・中・高・大学無料キャンペーンにつきましては、5月末までで51件の利用助成を実施しております。

(2)、(3)につきましては、但馬空港開港30周年記念ロゴを作成するとともに、30周年記念タペストリーの製作と空港への掲示を5月16日から実施しております。

(4) JALサマーキャンプの誘致につきましては、現在、日本航空株式会社と実施に向けた協議を行っているところです。

次に、大項目3つ目の関係機関・団体と連携した東京直行便開設への取組の実施では、例年の取組となりますが、7月5日に鹿児島県のJAC及び東京都のJALへの要望会を実施する予定にしております。

大項目4つ目の他団体や航空会社と連携したPR活動、利用促進策の実施につきましては、JALコウノトリフォトコンテストを5月1日から8月31日の期間で実施しており、5月末日時点で24件の応募がありました。表彰式につきましては、10月19日に開催の空の日イベントに併せて実施する予定にしております。

次に、7ページをご覧ください。JALホームページ「On Trip JAL」を活用したPR活動を日本航空株式会社と共同で実施します。内容としましては、但馬路線利用者に市内で使えるクーポンを期間限定で配付することとしております。クーポンの内容はご覧のとおりです。

次に、8ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進についてです。こちらにつきましても、4月以降の進捗状況について説明させていただきます。

大項目1つ目の使用バス路線の維持を図るため、国、県と協調した運行補助等の実施につきましては、例年のことではありますが、記載のとおり、各路線及び車両購入に係る国、県、市ごとの補助金申請事務を進めているところです。

大項目2つ目の地域の実情に応じた交通体系とネットワークの構築につきましては、竹野地域交通再編に向けた意見交換会を区長会及びコミュニティの役員を対象に4月から5月にかけて実施しております。

次のイには、竹野南地区新交通モード実証運行の実施について記載しています。5月末までの利用者は延べ185人となっております。ただし、あくまで実証実験であり、今後も引き続き地元の方とも協議を重ね、竹野地域の交通再編に合わせて、最終的な交通モードを決定したいと考えています。

次に、ウ、高橋地区通学おでかけ支援施策検討会

への参画についてです。9ページをご覧ください。こちらは、地域ができる通学、お出かけ施策を考える、但東・高橋地区コミュニティ開催の検討会に参画しているものです。

大項目3つ目の市街地循環バス、コバス、市営バス、イナカー、地域主体交通、チクタクの適切な運行及び運行支援についてです。例年の取組でありませんが、コバスにつきましては、北ルート、南ルート、エクスプレス便を運行しております。イナカーにつきましては、気比三原線、赤石線、竹野海岸線、三方線、八代線、河野辺線の6路線で運行しております。チクタクにつきましては、奥山、資母、ひぼこ、合橋の4区域で運行しております。

次に、大項目4つ目の運行事業者、地域と協働したモビリティ・マネジメント及びバス利用の機運醸成を図るイベントなどの実施につきましては、4項目上げています。

まず、アの市職員の市内移動及び但馬管内等への出張に係る公共交通利用につきましては、延べ71人の利用がありました。

次のイのノーマイカーデーの実施についてです。販売枚数は、第2水曜日で202枚、第4金曜日で103枚の計305枚となっております。今後も引き続き幅広く周知していきたいと考えています。

次のウ、高校生通学バス定期券購入補助事業についてですが、公共交通の利用促進と定住促進を目的として、市内在住の高校生等が通学に係る定期券を購入する場合、その一部を補助する制度です。補助金の額は、定期券の購入金額が1か月当たり1万5,000円を超える場合に、その超える全額としております。この補助事業のうち事前申請については、7月1日からオンライン申請の受付を開始することにしています。

次のエ、トライやる・ウィークにおけるバス利用についてです。昨年度開催したJR山陰本線利用促進策創出ワークショップにて創出された利用促進策に基づき実施したもので、路線バスで61人、市営バス「イナカー」で8人、計69人の利用がありました。



次に、10ページをご覧ください。最後に鉄道交通の利用促進についてです。こちらにつきましても、4月以降の進捗状況について説明させていただきます。

大項目1つ目のJR山陰本線の維持存続に向けた取組の実施の(1)維持存続に向けた機運醸成と利用促進策の実施についてです。

まず、アの乗って守ろう！竹野駅ペイの実施です。こちらにも昨年度開催されたJR山陰本線利用促進策創出ワークショップで発案された取組で、昨年度に引き続き実施するものです。切符購入金額に対して、その約2割をクーポン券で配付するものです。5月末の発行枚数は8,480枚、利用枚数は2,075枚となっております。

次に、イの『駅メモ！&アワメモ！』で行こう！兵庫県但馬キャンペーンひょうこと巡る山陰線・播但線の旅」キャンペーンの実施についてです。11ページをご覧ください。こちらにつきましては、但馬地域鉄道利便性向上対策協議会による普及啓発として実施した事業を記載しております。

次のウ、トライやる・ウィークにおける鉄道利用についてです。先ほどバス交通でも説明しましたが、JR山陰本線利用促進策創出ワークショップにて創出された利用促進策に基づき実施したもので、鉄道につきましては24人の利用がありました。

次のエ、一般社団法人たけの観光協会への竹野駅乗車券類等簡易委託販売業務の委託については、例年の事業ですが、先ほどの乗って守ろう！竹野駅ペイの影響もあり、4月、5月の乗車券類の販売額につきましては、昨年に比べて大幅に増加しております。

次に、オの協議会等での協議の状況については記載のとおりです。

最後に、大項目2つ目の京都丹後鉄道の運行支援の(1)の沿線自治体と連携した利用促進策の実施につきましては、京都丹後鉄道利用促進協議会事業の推進を図っております。

(2)施設整備、運営に係る支援及び(3)京都丹後鉄道踏切対策協議につきましては記載のとおり

りです。

都市整備課からの説明は以上です。

○委員長(太田 智博) 説明は終わりました。

質疑、意見等はありませんでしょうか。

どうぞ、清水委員。

○委員(清水 寛) 1点お聞かせください。

先ほど、どこだ、都市整備課のほうで、空港の利用促進の関係ですと現在の状況をお知らせいただいたんですけども、その中で、単位が何件、何件ということで、件でお知らせいただいたんですけども、そういう意味では、この件というのが人数なのか、事業数なのか、何かすごく分かりにくいなと思ったんで、その点、もう一度教えてもらってよろしいですか。

○委員長(太田 智博) 堂垣課長。

○都市整備課長(堂垣 俊裕) 件につきましては、往復される方でしたら、1人で2件になるので、人って言わずに往復ですと2件、そういうことがあるので件という言い方しております。

○委員長(太田 智博) どうぞ、清水委員。

○委員(清水 寛) はい、すみません。そうしましたら、人数で見ると延べ人数というふうにこれは見たらいいということですかね。

○委員長(太田 智博) 堂垣課長。

○都市整備課長(堂垣 俊裕) おっしゃるとおりです。延べ人数のことになります。

○委員長(太田 智博) ほかがございませんか。

芹澤委員。

○委員(芹澤 正志) はい、すみません。北近と山陰近畿なんですけども、何度か質問出てると思うんですけども、トイレと、もしくは道の駅の関係の計画っていうのは今、どのような。

○委員長(太田 智博) 久田課長。

○建設課長(久田 渉) 開通後の交通量も見ながらというふうなことになると思うんですけども、先ほど申しました実行委員会の中でも質問が出まして、国交省の所長からは、今のところ、設置する予定はない。しかし、今後の課題として、本線上にあるのはまほろばまでしかないので、八鹿の但馬蔵は

一旦降りなければいけないということからすると、この辺りに、地元のほうとしても、そういったものが欲しいというような意見もありましたし、所長からも、今のところはないんですけども、開通したら、交通量も見ながらといった発言がございました。現状としてはそういった状況です。

○委員長（太田 智博） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） 播但線でいえば、朝来からないわけで、相当長い距離になるんで、本当に1か所、トイレだけでも、トイレと自動販売機だけでも何かできないかなって、たくさんの方からそうって聞いているので、ぜひとも前向きに検討いただければと思います。

○委員長（太田 智博） 久田課長。

○建設課長（久田 渉） 新堂のところにトイレを若干、拡張、整備をし直すということの意見はございましたので、前向きに、今後もそういったことを検討課題として取り組んでいきたいと思っております。以上です。

○委員長（太田 智博） ほかがございせんか。  
須山委員。

○委員（須山 泰一） 6月の一般質問で、全但バスの路線減便のことを聞いた際にね、減便の一覧表が交通網のフォルダーにもありますけど、但馬空港の路線が、これ2便あったのが2便減となつとるように見えるんですけど、ここ、あのときはちょっと、本会議ではそんな、ちょっと飛ばしましたけど、ここ、どういうことなんでしょう、分かりせんか。

○委員長（太田 智博） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 但馬空港に向かう路線というのが、城崎温泉駅を出発する便と梶原の営業所から出発する便がありまして、記載してる廃止になった2便というのが、梶原の営業所から豊岡駅を通過して但馬空港に行く、昼に走ってた便なんですけど、それが、2便が減便になったということで、ちょっと分かりにくくて申し訳なかったとは思っています。以上です。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） だったら、まあ、ここの一覧

表でいえば、この梶原からの但馬空港線というのは廃線って考えたらええんですかね。その路線が、今回の4月の改正では便数が減る、減便だけで廃線はなかったって認識ですけど、これ、ここにある但馬空港線がゼロになったということは、この路線としては廃線ということになるんですかね、どうでしょうか。

○委員長（太田 智博） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 廃線という、また復活する可能性もゼロではないので、減便ということで聞いております。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） はい、分かりました。

そしたら、今日の説明のところでですけど、最初に、未来共創室か、最初、説明されたところでですけど、説明会に参加してるんだってという話でした。意見交換会に同行して、直接市民の意見などを聞いてるってことなんですけど、それは8ページにあるような、地区区長会だとかね、そういったものなのかなと思うんですけど、実際にバスを使われてる人の話が、これも本会議で言うたんですけど、そういう人の話も聞けるんかどうか、お聞きしたいです。

それから、8ページの高橋地区のこの、8ページにある高橋地区通学おでかけ支援施策検討会というのが、今まであんまり聞いてなかった、あったかもしれないんですけど、もうちょっと詳しく教えてほしいです。その2点です。

○委員長（太田 智博） 1点目はどちらのほうに質問。

○委員（須山 泰一） 1点目は経営企画課のほうに。

○委員長（太田 智博） 真狩課長、お願いします。

○経営企画課長（真狩 直哉） 参加、同行している意見交換会といいますのは、都市整備課のほうのこの8ページに書いてあります竹野地区の意見交換会、そちらのほうに参加しているということです。以上です。

○委員長（太田 智博） 高橋地区、堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 高橋地区の通学おでかけ支援施策検討会なんですけども、これ、高橋地区のコミュニティが主催されてまして、地域でどん

なことができるのかってというようなことを地域が主体となって考え、検討されてる会で、それに都市整備課の職員がメンバーとして参画してる、そういうことでございます。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） そしたら、今、経営企画課に答えていただいた竹野の意見交換会のことですが、実際利用されている方の声がどの程度聞けてるか、教えていただきたいのと、高橋地区のは分かりました。そうですね、実際、竹野で利用されてる方の声が聞けてるか、お聞きしたいです。というのも、路線バスとイナカーが、なくす方向で、もう竹野全域、チクタクにするという方向やということを本会議で、米田さんの質問でもそう答えられてたと思うんですけど、それで、本当に竹野の人らがええんかなというのが僕としてはやはり疑念があります。地元の人らがそれで納得されてるんかなと、これからのことなんか、その辺り、お聞きしたいです。

○委員長（太田 智博） どっちに。

○委員（須山 泰一） 向こう、向こう、もうこっちの説明会だっていうことなんで。

○委員長（太田 智博） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 直接乗られてる方の意見としましては、竹野南地区ののりあい・みなみ、実証実験でしてるんですけども、そこの実際に乗られてる方の意見は聞いております。以上です。

○委員（須山 泰一） どういう意見が……。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） どういう意見があるか教えてほしいのと。それから、竹野に関しては、このア、イ、ウとあって、ウが高橋ですけど、イの実証実験で5月までにたしか185名って言われたと思うんですけど、それは昨年までと同じ実証実験やっとうけど、この4月、5月の数の話ですかね。この185人って言われたのは、5月末まで185名というのは、4月から新しい実証実験になったんですけどか、そこら辺、教えていただければ。

○委員長（太田 智博） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 昨年度と全く同じ実

証実験をしております、4月、5月の延べの人数になります。

○委員長（太田 智博） いいですか。

○委員（須山 泰一） もう一つ聞いたんで。

いや、もう一つ聞いてないのかな、意見交換会の中身、どんな声だったか。

○委員長（太田 智博） 意見交換会の中身を。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） すみません。

○委員長（太田 智博） はい。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） お話の中でちょっと印象だったのが、これからもモードは、どんなモードでもいいんだけど、乗れるようなものは残してほしいということや、ドライバーがプロであっても、別に地元の方でも、あまりそういうことは気にしないと、そういった意見はありました。以上です。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） 1つ目、実証実験のほうは、二月で185ということは、まあ、一月は九十数名ですね。これが、本会議でも言ったように、2年前、イナカーがあったときは、一月でも300人近い利用があったんですよ。それが、定期便がなかったことで、もう一月の利用がこの90人ぐらいにね、竹野南ではなってると思うんですよ。竹野全域、チクタクにしたら、もうますますね、前日に予約が必要だとかいうことになる、ますますもう、もう本当に必要な人しか利用できないというか、もう全くバスが空白地、一旦空白地にするなんていう話もあったけど、それでええんかなと。

神戸新聞のこの前、5月16日では丹波市のことが出とって、バス利用がV字回復だといって出てんです。この20年、2020年から2023年の3年間で乗客数が約2.7倍に伸びたと、2020年から底がそこですけど、そこから8万2,000人増えたと。減便や路線廃止を防ごうと、丹波市とバス事業者が2019年度から通学定期の購入補助やルートの見直しなどを始め、朝夕の中高生らの需要を掘り起こしたと。具体的には、市が創設した通学定期の購入補助を市内の高校生は1か月のバス料金の自己負担上限を1万円にしたと、沿線で暮らす

生徒を中心にこの3年間で延べ4万人の乗客が増えた。近年、相次ぐ小・中学校の統廃合、徒歩通学ができなくなった生徒が増えたことで、バスを使うことが増えてると。そうですね、こういうのがあって、ご存じだと思いますけど、こういうのを見て、どう思われますか。こういうのを豊岡でも、こういう抜本的な方向、改革、需要に対して、移動需要に、今ある移動需要にどう応えるかだけじゃなくてね、それだったら、もうどんどんと減っていくし、路線も減っていくし、そしたら需要も減っていくし、またバスも減っていくという、ある意味悪循環だと思わうんですよ、竹野の事例も。僕は、こういう抜本的な改革をね、本来、もうそういうふうな、もう全体の見直しをするって方向だったと思うんでね、今。この機にこういうもう抜本的な改革の方向を考えてほしいと思うんですよ。どうでしょうかね。

○委員長（太田 智博） ある程度、地域からもこういうニーズが。いいっていう意見もある中での、なら答弁を。

富森部長。

○都市整備部長（富森 靖彦） その新聞も私も見させていただきました。V字回復ということで、取り組まれたことはいい方向にいったんだというふうに思っています。

豊岡市についても、既に過去からいろんな取組をやってきておまして、丹波でやっとなるようなバスの通学補助なんかもやっていますんで、そのいろんな方策をやっとなる中で、今、こういう状況になっていますんで、竹野については、本会議でも言いましたけど、実際の利用者が物すごく減ると、人口減少しているのもあるかと思いますが、減っているというのは、やっぱり使いにくいからということがあると思いますんで、その辺りもしっかり地元に入って、いろんな意見を聞きながら、みんながどの時点で折り合えるかっていうのを今、探ってるというような状況ですので、本会議でも言いましたように、一旦真っさらにし、空白にしてしまっって、そして、新たな、もっとうしたほうがいいんじゃないかという意見も出てくると思いますので、そういうことも含

めて、みんな考えていこうっていうのが今の状況ですので、今後、しっかり地元にも入っって、みんなが納得性、納得感が得られるような方策、折り合えるような方策っていうのを探っっていくたいというふうに思っっています。以上です。

○委員長（太田 智博） 谷口室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） 本会議でも少し触れさせていただきましたけども、例えば公共交通は都市整備課がやります。福祉輸送は福祉がやります。通学バスは教育がやりますということでこれまでやってきました。それぞれの分野では、どういったやり方がいいのかっていうことを一生懸命考えてやってきたんですけども、それぞれがもう限界に来っっているんで、それぞれ個別輸送は無理だろうと。なので、そういうところをリセットして、市全体としてどういう公共交通体系がいいのかっていうことを検討する。そのために未来共創室ができたわけですけども。ちょっと不確かなんですけども、恐らく竹野南のイナカーの利用者数が減っったのは、小学校の統合でそれまでイナカーに乗っっていた子供たちが通学バスに振られたのではないですか。

○委員（須山 泰一） そういうことはない。

○市長公室長（谷口 雄彦） ではないですか。

○委員（須山 泰一） ではない、はい。

○市長公室長（谷口 雄彦） ということもあつたり、逆に丹波のほうは、統合で遠くなっった子供たちを路線バスに乗せるんです。その路線バスからすると、定期バスからすると、通学する児童生徒の数っていうのは相当なウェートを占めるんで、それがあんなしでは、相当その路線の成績に関わっってくるということがあるので、通学バスは通学の専用バスとして運行するのが本当によいのかっていうことも含めて、今後議論していく必要があるんだというふうに考えてます。

○委員長（太田 智博） よろしいですか。

須山委員。

○委員（須山 泰一） 竹野は、僕もそこは、スクールバスの、子供の学校通学の人数も含めた数なのかどうかいうのは調べてね、それだと、月270人じ

ゃないんですね、もっと多かったです。それ引いた数で、1回、都市整備課に資料を頂いて、去年だった、1年半ほど前に、それを計算したら、何せ床瀬と三原、2路線あって、毎日、3往復あったんですよ、どっちも、1便1人弱だったとしても。それで、定期便が毎日、合わせたら6往復あったんで、それがあって、そんだけの数その当時は乗ってたということです、子供以外のね。それがなくなって、もうこの今の実証実験、予約制ですよ、だから、こっだけ現状、減ってるっていうことです。

確かに、さっきの空港の話じゃないけど、高橋地区なんかは、一番多くの久畑か、あそこを高校生が何人か利用しとるというだけで、3人利用しとったら、1日2回使うで6で、一月20日使ったら、それだけで120という実績があって、通学で使えば、もう数が一気にぐっと伸びるとい、そういう計算の仕方が、本当、学生が数人乗るだけで一気にその路線の成績がよくなるっていうような、ちょっとそういうところがあるんです、確かに。

言われてたのは、前回聞いたその全体最適みたいな、今日も書いてあったけど、まあ、それは大事なことだと思うんですけどね。さっきのちょっと、読んだかもしれんけど、神戸新聞の中で言えば、この保護者の送迎をバスに切り替えた中高生が丹波では多いと。豊岡でもこの保護者の送迎というのがもう当たり前になっとなつて、これがかなりの、保護者としても負担だし、これがバスに替われば、本当にうれしい方もたくさんあるんじゃないかっていう、こういうことを、定期の上限を1万5,000円を1万円に変えることでそれがいくのか、そうではないかもしれないですね。何とかそういうことをね。今、下手したら、小学校の統合で、小学校からもう保護者の送迎が要ると。そうしたら、もう中学、高校まで、もう何年だ、6、3、3とずっと保護者の送迎が要るといような事態も出てきてるわけで、丹波市でできるんだったら、豊岡でもできるんじゃないかということで、まあ、ぜひ検討してみただいて……。

○委員長(太田 智博) 新聞の内容もよくご存じな

ので、そこをしっかりと検討してもらいうことで。

○委員(須山 泰一) 検討してほしいと。

○委員長(太田 智博) ちょっと時間がもうございませんので……。

○委員(須山 泰一) そんな時間が惜しいのかな。

○委員長(太田 智博) いや、ありますけど、須山委員ばかりの質問じゃないんで、皆さん意見……。

○委員(須山 泰一) 僕もこれで終わろうと思ってました。

○委員長(太田 智博) お願いします、はい。もう十分ご存じな内容ですもんで。

○委員(須山 泰一) 委員長、ちゃんと言ってくださいね、検討してもらえるように。

○委員長(太田 智博) はい、分かりました。

ほかございませんか。(「いいですか」と呼ぶ者あり)

荒木委員。

○委員(荒木慎太郎) ちょっと2点ほどお伺いします。

但馬空港の30周年の記念事業の小・中・高・大学無料キャンペーンの内容をもうちょっとだけ詳しく教えてもらえますかね。

○委員長(太田 智博) 堂垣課長。

○都市整備課長(堂垣 俊裕) 学校を通して、無料のクーポン券と言ったら言い方が変か分かりませんが、ちょっとしたものをお配りしてて、それを使って助成していただくことを、無料で往復使えるっていうものなんですけども。

○委員長(太田 智博) 荒木委員。

○委員(荒木慎太郎) これはどう、クーポン券、小・中・高・大、豊岡の小・中・高・大学生にこのクーポン券を配付するということですか。

○委員長(太田 智博) 堂垣課長。

○都市整備課長(堂垣 俊裕) そうです。豊岡市内の小・中・高、大学ですと、どういったらいいかな、連絡があれば、お送りするみたいなことになるんですけども、出身者でも使えるっていうものになります。

○委員長(太田 智博) 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） これ51枚、そのクーポン券を配付するっていうことですかね。

○委員長（太田 智博） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 51の数字につきましては、4月、5月で申請があった件数になります。

○委員長（太田 智博） 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） 分かりました。ちょっと人数とあれの件があったので、どうなのかなっていう確認だけでした。

もう1点、経営企画課のほうの自分ごと化会議のことなんですけど、今、オンラインで意見集約されてると思うんですけど、どれぐらい今、意見が集まっているのか、ちょっとお聞きしてもいいですか。

○委員長（太田 智博） 谷口室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） 今、実数は把握はしてませんけれども、当初、オンラインで意見を求めるということすら知られてなかったの、そこはこっちからプッシュ、ちゃんとお知らせしなさいという指示をして、LINEなんかで今、お知らせをさせていただいて、意見集約をしてるところですけども、そんなに多くは集まってないと思う。ちょっと今、実数は分かりません。

○委員長（太田 智博） 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） 分かりました。

自分ごと化会議ということで、どれだけ多くの市民を巻き込めるかがすごく問題なのかな、課題なのかなと思ってて、僕もちょっと一般質問でも前回、3月させてもらったんですけど、この交通の問題っていうテーマは知らなかったの、ちょっとそこでまた聞きたいんですけど、この自分ごと化会議のゴールとかというのがこの1年で、もちろん途中の段階もあると思うんですけど、何かそういったところ考えておられるところあれば。

○委員長（太田 智博） 谷口室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） 自分ごと化会議っていうのが、特徴として、例えば指名された人が委員で出てくるとか、思いがある人が出てくるということじゃなくて、とか、利用されてる人だけが出てくるのではなくて、いろんな、多様な立場の市民が出てき

ていただいて、言えば、ミニ豊岡市的な構成になるんだと思ってます。そういった方々がそれぞれの立場を超えて、同じ情報で同じ理解をする中で、じゃあ、どういったものがいいんだろうという議論をしてもらってのがすごく大事で、そこが1つ目の大事なところなんですけども、それで、自分の意見はありながら、皆さんの意見を聞いて、1つの意見にまとめていく。こういった方向がいいんじゃないかという提言をいただくようなところをイメージをしています。それを採用するかどうかはまた別の話ですけども、そのプロセスと合意をした提言をまとめていただくようなことを一つのゴールとしてイメージしています。

○委員長（太田 智博） 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） ということは、事業、何かそこで意見が出たことを、まあ、よかったら事業化できるけど、特にこう、何ていうかな、事業化できそうでなければ、もうそれは議論をしたでゴールになるっていうことで間違いはないですかね。

○委員長（太田 智博） 谷口室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） そうですね。出てきたものをそのまま採用するかどうかっていうのはまた別問題で、少し形を変えるかもしれませんし、採用できないかもしれませんけども、そのプロセスの中で、こういった方々、こういった意見があったっていうことは市としての財産にはなるというふうに思ってます。

○委員長（太田 智博） 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） 多分、必ずしも絶対事業化できるいい意見が出てくるとは限らないとは思ってるので、それはすごく分かってるんで、そこを、いかにプロセスを大事にするかのほうが大事かなと思ってるので、進捗とか、自分ごと化会議がどう進んでますかっていうのをどうやって市民に報告するのかって、今、それを今、現時点でどう考えるのかだけを最後お聞かせください。

○委員長（太田 智博） 谷口室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） まず一つ、ちょっと不確かですけども、ユーチューブで生放送をするとい

うようなことであつたり、アーカイブで撮って、後からでも確認できるってことでもあつたりします。基本的には全てをオープンにして、公開できるようなスタンスでやっていきたいと思っています。

○委員（荒木慎太郎） すみません、もう1点だけ、最後、自分ごと化会議でこういった意見集約がありましたよだったり、何かで報告はされる考えですかね。

○委員長（太田 智博） 谷口室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） 今、特別時間を設けて、結果だけをご報告するという機会は想定をしておりますけれども、当然、何らかの形で皆さんがその情報にアクセスできるようにはしたいと思っています。

○委員長（太田 智博） 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） 多分参加された市民の方が、結局、参加したけど、これどうなったんだっていうのをすごい多分言われると思うので、その意見の取扱いだけはしっかりやってください。

○委員長（太田 智博） ほかがございせんか。  
堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 先ほど大学生の話がありましたけれども、ちょっと間違えてまして、市外に在住の方は対象外になります。

○委員長（太田 智博） 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） じゃあ、住民票がこっちにあれば、対象にはなるってことですかね。

○委員長（太田 智博） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 市外の学校に在学する児童、学生は助成対象外ということです。

○委員（荒木慎太郎） なるほど、はい。

○委員長（太田 智博） 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） 分かりました。

○委員長（太田 智博） ほかがございせんか。ありませんか。

ほか特にないようですが、以上で委員会所管事項の現状については終わりますが、この際、当局側から何かございせんでしょうか。（「ないです」と呼ぶ者あり）

ないようですので、当局の職員の方々は退席をいただいて結構です。お疲れさまでした。

5分間、休憩をさせていただきます。再開を10時15分。

午前10時09分休憩

午前10時14分再開

○委員長（太田 智博） おそろいでございますので、委員会を再開したいと思います。

次に、（2）委員会の運営方針についてです。

前回までの委員会で決定した委員会重点調査事項をSideBooks上の本日のフォルダーの次第等の資料4ページに配信しております。重点調査事項について確認をしていただいて、ご意見がありましたら、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（太田 智博） 特によろしいですか。

特に意見がないようですので、当委員会の重点調査事項は現行のとおりとし、変更しないことにしたいと思います。異議ございせんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（太田 智博） 異議ないようですので、そのよう決定しました。

それでは、次回の委員会で特に調査を進めていきたい項目があれば、協議をしたいと思いますが、多分この場ではなかなか出ないと思いますので……（「1点」と呼ぶ者あり）

どうぞ、須山委員。

○委員（須山 泰一） 次回委員会で協議したいこと。

○委員長（太田 智博） はい、そうですね。

○委員（須山 泰一） 実は僕、6月議会の前に、個人的に豊岡市の運転免許の返納状況いうのを調べたかったけど、短期間ではちょっと分からなくて、そういうのん、当局で調べてほしいんやけど、どう思います、どうでしょう。（「いいんじゃないですか」「同感でございます」と呼ぶ者あり）警察に聞いたりせなあかんと思うんよね。

○委員長（太田 智博） 返納状況とあれは何、クー

ポンなんかな。（「もらえる」「たしか」「そうそう」と呼ぶ者あり）そんなんの活用状況みたいなんも。

○委員（須山 泰一） ああ、いいですね。

○委員長（太田 智博） 分かればいいですね。

○委員（清水 寛） かえってひょっとしたら、うまいこと連動してないかもしれない。返納はしとるけども、そっちの情報は。

○委員（須山 泰一） まあ、そうですね。

○委員長（太田 智博） もし分かれば、そういうクーポンの状況も。

○委員（須山 泰一） まあ、分かれば。

○委員長（太田 智博） 分かって、どういうふうに使ってるかっていうのもええんかも分からんね。意外と公共交通使ってないとかね、その家に眠ってしまってるとか。

○委員（芹澤 正志） いや、返納せずに、更新だけしないみたいな人もおって、そしたら、利用促進につながっていかない。

○委員長（太田 智博） 確かに。

○委員（芹澤 正志） 免許証持っていたいんだけど、パンチで穴空けられるんで、それをもう失効したまま持っとくってという人がおるんです、そしたら、何ももらえないんですよ。

○委員（清水 寛） そうですね。

○委員（芹澤 正志） そういうのをちょっと調べてほしい。

○委員長（太田 智博） まあ、そうやな。須山委員のほうから免許証の返納状況ですか、状況でいいですかね。

○委員（須山 泰一） そうだけど、都市整備では分からへんねんな。多分1階の生活何とか課。（「生活環境課」と呼ぶ者あり）環境課か、あそこが少し免許返納に関しては関わっとる程度で、あそこも警察に行かんと分からんってなってる。

○委員長（太田 智博） いや、だから、どこまで分かるかは別として、取りあえず、次回の項目の中に取り上げていただきたい事項としては、免許証の返納状況でいいですか、須山委員。

○委員（須山 泰一） うん、その付け足しでいろいろあってももちろんええですよ。

○委員長（太田 智博） クーポンやね、その利用状況なんかも分かれば、そこも含めて次回、9月の委員会になりますが、よろしいですか。

○委員（須山 泰一） 調べていただけたらありがたいです。

○委員長（太田 智博） 皆さん、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（太田 智博） そのような内容で少し進めさせていただけたらというふうに思いますので、ほか、ほかはないんですかね。

○委員（荒木慎太郎） 自分ごと化会議が第1回と第2回について、第2回目が9月に終わるので、その報告をしてほしいなと思うんですけど。

○委員長（太田 智博） でしたら、取りあえず、免許証の返納は新たな項目なので、それは追加しますが、今日以降のまた各事業概要の進捗状況という部分で説明してもらおうという、全体ね、この自分ごと化会議だけではなくって、全ての進捗状況をまた説明してもらおうという内容でよろしい、よろしいですかね。それだったら、自分ごと化会議の話も出てくると思うんで。

○委員（荒木慎太郎） はい、分かりました。

○委員長（太田 智博） 特になければ、今の内容を含めて、今後、当局側のほうに投げまして、進めていきたいと思いますので、またよろしく願いをしたいと思います。

次に、（3）番に移ります。管外行政視察についてでございます。

もう既にお知らせをしておりますように、7月の17、水曜日、18、木曜日、1泊2日で管外行政視察を予定しています。委員の皆様からいただいた質問を合わせて、別紙のとおり質問事項をまとめさせていただきました。行程や詳細は、後日、事務局からメールにて発信、連絡させていただく予定でございますので、またご確認をいただけたらというふうに思います。特に管外行政視察、ございませんでしょうか。今、島根県というご意見ありましたが、両日



とも鳥取県でございますので。よろしいですか。米子市のほうで1泊をさせていただいて、日程的には緩やかな日程で進めさせていただこうと思っておりますので。

それで、特になければ、(4)その他についてです。

この際、何かご意見等ありましたら。

ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前10時20分閉会

---